

「江南市に巡回バスを走らせることを求める請願書」の採択を求め、討論を行います。

### 【1万の署名の重みを】

10591名もの多くの署名を添えた請願であることの重みを、まず真剣に受け止めていただきたいと思います。署名は大歓迎され、頼んでもいないのに自発的に署名集めに頑張る方々が各地で生まれ、署名用紙が手から手へと広がっていった結果が、この1万筆を超える、ずっしりと重い署名です。ある方は、クリーニング店の店先においてお客さんに次々と声をかけ、ある方は、体操教室にくる方々に訴え、老人会で、区の回覧板で、地域のサロンの仲間に、喫茶店の知り合いにお願いし、またスーパー前の宣伝では、向こうから署名によってきてくださるなど、反響の大きさ、要望の切実さを強く感じました。特に市周辺の地域では、いつ署名集めに来てもらえるのか待っていたと、大歓迎で署名に応じてもらえ、いかに困っているかを初対面の私に語っていただけました。

この署名に託された市民の、熱い熱い期待を、議会としてけっして裏切らないでいただきたい。市民を失望させないでいただきたい。市民が議会を信頼しているからこそ寄せたこの熱い期待をしっかりと受け止めて、期待に応える結果を、市民に説明ができる結果を示していただきたいと、まず訴えたいと思います。

### 【巡回バスは多方面へ波及効果】

超高齢化で交通弱者は増加の一途です。運転免許証の返納の呼びかけも進められていて、いつ返納するか、返納したらどうやって買い物、通院するか、思案している方が多くなっていることは地域をまわれば簡単にわかることだと思います。お出かけの足として、国民年金しかない方でも、どこに住んでいても大丈夫な公共交通として、自治体が走らせる低料金のコミュニティバス、いわゆる巡回バスがあります。

請願趣旨にも書かれているように、低料金のバスには高齢者の社会参加の促進、健康増進効果、高齢者が活発に外出して地域で買い物をすることによる経済効果、賑わいの創出、交通事故の防止効果などが認められています。

クロスセクターベネフィットといって、巡回バスへの支出は、費用が掛かるマイナスの一面だけではなく、多方面へのプラスの波及効果が大きく、高齢者の健康増進による医療費の減少、高齢者の外出によって生み出される地域の賑わい、買い物することでの経済波及効果などが認められ、また、車ばなれの進む若者世代や子どもたちにとっても巡回バスは切実な要望です。持続可能な地域づくりが叫ばれていますが、巡回バスの運行は二酸化炭素排出量を減らし、地球環境を守ることにもつながります。

### 【財源はある】

市が巡回バスを走らせた場合、国補助金や料金収入で賄えない市の持ち出し分の8割が、特別交付税で措置されており、県議会でも県の交通対策課がこれを認める答弁をしています。江南市でも今定例会の私の一般質問でこの特別交付税措置の制度がバスを走らせる財源として使えることを認めています。またもう一つの財源として、地域公共交通確保維持改善事業補助金があり、複数の自治体をまたぐ基幹幹線系統バス路線に対し、収支差の2分の1の補助ができることになっています。これらの制度を活用しながら、さまざまな自治体が巡回バス、コミュニティバスといったバスを走らせ、たえず改善・工夫をして市民ニーズに合うように頑張っています。

### 【いこまいCARは、もう限界】

いこまいCAR（予約便）は、気軽に使える条件がある人や地域にとっては、たいへん便利な制度で、どれだけでも回数制限なく使えます。しかし市周辺部に住んでいる人は、いこまいCARで隣町まで行けません。料金が高くなりすぎて使えません。また、年金が少ないなど経済的に苦しい人にとっても、気軽に利用できるものではありません。

いこまいCARによって地域格差が生まれ、所得格差が交通格差につながっています。いこまいCARに使うタクシーは、車両台数に限りがあります。利用希望者が集中する朝は、予約を断られたり、一般のタクシーを頼んでも、いこまいCARの予約でいっぱい断られる事態も起きています。

いこまいCARと路線バスだけでは、限界に来ていることを認識することが必要です。

いこまいCARを改善し、もっと便利にすればなんとかなるものでは決してありません。75歳以上の方々が急増する2025年が迫っています。いこまいCAR頼みでは青天井で市の財政負担が増えていき、地域格差、所得格差による交通格差が広がっていくばかりです。

一刻も早く、新しい公共交通網を整備して、後期高齢者の急増期に備え、どこに住んでいても、経済的に大変な人も、平等にお出かけの機会が保障される、本当の意味で暮らしが花開く生活都市、江南市を作っていく必要があるのではないのでしょうか。

### 【巡回バスと乗り合いタクシーを組み合わせる】

巡回バスは本当に弱者にやさしいのか疑問、との意見がありました。バス停まで歩けない高齢者、障害者のために対策も併せて取っていくことはもちろん必要です。例えば、みよし市のように、乗り合いタクシーと巡回バスをスムーズに連絡させて、乗り継げるようにすることで、この問題を解決することができます。

公共交通政策は、地域ごとに事情が違い、どこかでうまくいったら、江南市でもうまくいくというものではありません。バス事業者、地域住民と市が、がっちりスクラムを組んで、どうすれば、この地域の誰もが自由にお出かけができる公共交通にして行けるのか、侃々諤々議論して作り上げ、その後も利用促進、改善をたゆまず取り組んで、その地域にピッタリあったものができると思います。

### 【時期尚早などとんでもない】

巡回バスは時期尚早という意見がありました。超高齢化が進行し、このままでは困る、なんとかしてほしいという要求に強さが1万の署名に表れています。今から公共交通の再編に取り組み始めても、出来上がり市民がなじんで便利に使ってもらえるようになるまで、早くても5年、10年はかかります。今時期尚早だというなら、いったいつ、その時期になるのでしょうか。今から速やかに取り組み始めていただきたいと思います。

以上、色々申し上げました。ぜひ請願採択にご賛同いただき、1万の署名を寄せた市民の熱い期待に応える結果を出していただきたいと切に要望し、討論を終わります。